

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『ゴルフが消える日 至高のスポーツは「贅沢」「接待」から脱却できるか (中公新書ラクレ 581)』

赤坂 厚／著 中央公論新社 2017. 4 783. 8/77 174
30年以上にわたってゴルフを取材しプレーしてきた著者が、「ゴルフはいずれ日本から消えるかもしれない」と警鐘を鳴らし、その背景としてゴルフ界が抱えている「2020年問題」を解説しています。

先日引退を表明した宮里藍選手のようなスター選手が存在する効果だけでなく、ゴルファーの一人ひとりの活動の重要性を提言しており、「ゴルフ、始めましょうか」と題された最終章では、著者の危機感とゴルフ普及にかける情熱の大きさを感じます。

『ネコリパブリック式楽しい猫助け No Cat No Life』
河瀬 麻花／著 河出書房新社 2016. 12 645. 7/77 16Z/
空前のネコブームと言われる今日ですが、一方で捨て猫や野良猫の問題も注目されています。

この本では、そんな捨て猫・野良猫たちを保護し、新しい家族を探しながら運営している”自走型保護猫カフェ”「ネコリパブリック」、通称「ネコリパ」の楽しくて新しい取組みを紹介しています。

かわいい猫たちに癒されながらも、動物を飼う責任の重大さをあらためて感じる一冊です。

『コンスタンツェ・モーツァルト 「悪妻」伝説の虚実』
小宮 正安／著 講談社 2017. 3 289. 3/モ 173/

世界中で愛される作曲家・モーツァルト。一方その妻コンスタンツェは、夫に冷淡な「悪妻」と評価されてきました。本書では、モーツァルト夫妻に関する書簡などの一次資料や伝記を辿っていきます。二人を取り巻く人々について様々な評伝を紐解き、当時のフランスの時代背景を含めて考察することで、夫を支える妻の姿が次第に描き出されていきます。

彼女は如何にすれば「良妻」と言われたのでしょうか？個々人の価値観や風習によって、ひとりの女性の評価が形作られていく過程が浮き彫りになります。

児童・児童図書研究

『文豪ノ怪談ジュニア・セレクション 呪』

東 雅夫／編 汐文社 2017. 3 918/7
小泉八雲、三島由紀夫など、「文豪」たちによる怪談を10編集めたアンソロジーです。詳しい注釈つきで、単語の解説に留まらず、鑑賞のポイントや参考文献案内まであり、大人にも読み応え十分の1冊です。本文と注釈が同じ見開きページにあるので、参照も便利です。物にこめられた呪い、嫉妬が招く呪い、積もり積もった怨みからの呪い……、不可思議な力の前に、登場人物はみな、惑い怖れるばかり。現実と非現実の境界が揺らぐ瞬間を、ぜひ味わってみてください。同じシリーズには「夢」「獣」「恋」「霊」があります。

雑誌・新聞

近年、自身のがん治療を公表する著名人が増えてきました。がんは日本人の死因としても毎年上位に入る病気です。もし自分ががんになったら。家族ががんになったら。現在の治療法や共存について雑誌・新聞の特集や関連記事をご紹介します。

*特集 がんと生きる

『週刊ダイヤモンド』2017. 5. 13日号 Z/330. 5/S7

*連載「作家がガンになって試みたこと(1)(2)」

『図書』2017. 5月号, 6月号 Z/020. 5/T1

*「“がんサバイバー”からのアドバイス 治療、仕事、生きる喜び がん共存する私の秘策」／篠藤 ゆり

『婦人公論』2017. 6. 13日号 p. 40-43 Z/910. 5/B16

*「ガン手術 8回の死生観」／黒沢 年雄

『新潮45』2017. 6月号 p. 27-31 Z/051/S31

*「末期ガンの夫を「家で看取る」／三砂 ちづる

『新潮45』2017. 6月号 p. 43-46 Z/051/S31

*「東大グループ発表へ 麻疹ウイルス改変がん治療法を開発」

『朝日新聞』2017年5月24日 5面

*連載「がん治療解体新書 第1部転移を封じる」

『日経産業新聞』2017年05月15日～18日

地域

『石のまち石川』 山内祥行／編

石川町教育委員会 2017. 3 L458/I1/1

全国でも有数のペグマタイト鉱物の産地である石川町の教育委員会が発行した小中学生用の鉱物岩石図録です。子どもたちが自分たちの町に興味を持つ入り口はいろいろあると思いますが、石川町ならではの視点が楽しい1冊です。

ところで「福島県の石」は何かご存知ですか？答えはぜひこの本を読んで確かめてください。

『未来をはこぶオーケストラ』岩井光子／著
汐文社 2017. 3 LS379. 3/I9/1

皆さんは「エル・システマ」という言葉を聞いたことはありますか？南米ベネズエラで生まれた、楽器を持っていない子どもでも自由に音楽を学び、オーケストラで演奏できる教育プロジェクトのことです。

東日本大震災から1年後、福島県相馬市においても国内外の尽力によって「エル・システマジャパン」が発足し、被災地の子どもたちと音楽の交流が始まりました。紙で作ったバイオリンで演奏姿勢を学ぶことから始まり、相馬・東京での演奏会。果てはドイツにおけるベルリン・フィルとの共演…！世界へ羽ばたいていく子どもたちと音楽の持つ無限の可能性に、心が沸き立つこと間違いなしの1冊です。